

特別伝道礼拝

2025年2月16日(日) 午前10時30分

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 河野和雄

前 奏

招 詞 詩編 58編12節

讃美歌 2編1

主の祈り

聖 書

詩 編 8編1~10節 (旧840)

ルカによる福音書17章11~19節

(新142)

祈 禱

使徒信条

讃美歌 30

説 教 「人は何ものなので」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃美歌 257

献 金

頌 栄 540

祝 禱

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

2月の祈り

主が共におられることに支えられ、今のこの時代に信仰によって生かされている、その恵みを感じることができるように。

新たな歩みに進み出す若い人々が主の愛と人々の祈りに力付けられるように。

戦火が止み平和がもたらされるように。痛みを負う人々に慰めといたわりが与えられるように。

世の指導者たちが神をおそれ正しい判断をすることができるように。

今日の祈り

教会に与えられているも言葉の恵みが、世界に伝えられ、御心が現わされ、神の御国がもたらされるように。

礼拝が導かれ、キリストが共に居られ、慰めと希望が与えられるように。

新たな歩みに向かう子どもたち青年たちが神に守られ良い備えをすることができるように。

「人は何者なので」 高橋和人

ルカによる福音書17章11~19節

礼拝は全て伝道礼拝、説教も伝道説教を目指している。不十分ながら証しとしたい。

わたしは自然豊かな山里で生まれた。圧倒的被害世界は神の存在を教えた。一方で死も身近だ。わたしは小さく、病弱に生まれた。その家は大きく、物語の潜むような家だった。本があり居心地が良かった。

大きな学校に移っても最も背が低かった。病院と学校に半分ずつ通った。普通の子のところにははるかに及ばない。その代わり、読書と手先のこ

とは上達した。中でも皮膚病は傷を残した。受け入れる他にないものがある。祈りが与えられた。

別の世界を持つことは、見えるものを絶対視しない。父は教会学校を誘致し、それが信仰生活の始めとなった。

母教会は十幾つの家の教会を主にした広域伝道の教会で知られていた。瀬谷重治牧師は授洗者800を数え、病院、幼稚園、キリスト者村を持っていた。総合伝道の教会であった。集会のないところでは牧師の訪問を受けた。瀬谷牧師は近寄りたく魅力的であった。受洗は高校の時。

わたしの信仰の形成はのろまでであった。十字架の恵みや罪の認識にも時間がかかった。召命も時間がかかった。しかし、留まることができたのは、自分と聖書の場面が重なり合うことであった。そこには失われて行かないものがある。

「主の栄光があなたのしんがりとなられる」(イザヤ58・8 52・12)は心強い。後の者はしんがり(殿、後ろを守るもの)の恵みを知る。

奉仕できないと思うものも、交わりが得意でないものも、賜物を持たないものも招かれている。役に立つから、ふさわしいからではない。信仰の主体は自分の方ではなく招かれるお方にある。

先んじることが大事なのではなく、招かれる方を信頼し、応えることにある。洗礼を受けことが必要なのは招いてくださる方がその招きを受けることを求め、待っておられるからだ。

洗礼を受けることで、神のまなざしを知ることになる。「人は何ものか」答えのない、人の空しさを問う問いに見える。しかし、これを問うこと。人の思いを越えて、あなたとして主が御心に留め、顧みくださる不思議への信頼がある。